



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

二度と悲しい時代が訪れないために

『ひめゆり』の由来は沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の校友会誌『乙姫』と『百合』にある。両校が併置される時、校友会誌も合併し、『乙姫百合』となった。ひらがなで表記されるようになったのは戦後だ。

私たちが見学した『ひめゆり平和祈念資料館』は多くの女学生が看護要員として送りこまれた『沖縄陸軍病院』の跡地に建てられている。入り口には多くの女学生が犠牲となった『第三外科壕』の跡が残っていた。館内には戦場の様子、戦時中の軍事教育の様子、生き延びた人々の証言、そして200人以上の犠牲者の遺影が展示されていた。

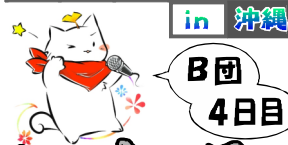
ひめゆり学徒隊に限らず、かつて私たちと同じ青春真っ只中であつた人々が砲弾の飛



今も残る『第三外科壕』

び交う戦地に送り込まれ、多くが犠牲になつた。現在の私たちの平和な日常はそんな暗い時代の上に存在する。「二度とこんな悲しい時代が訪れないように、次世代を担う私たちが考え、行動を起こさなければ」。そんなことを考えながら、私は『第三外科壕』の前に手を合わせた。(B団・轍)

12月 12日 修学旅行 取材日 日記



平和に思いを馳せる

琉球王国の舞台 首里城

修学旅行最終日は曇り。朝食後はバスで、首里城公園(B団全クラス)とひめゆりの塔(4, 6, 8組)、沖縄ワールド(2組)を観光した。この後那覇空港で飛行機に乗り、午後3時前に関西空港へ到着した。生徒たちは少し疲れていたが、それ以上に「思い切り楽しんだ」という笑顔が輝いていた。



▲赤い瓦が美しい首里城

歴史的価値があるとき、日本では2000年12月、11番目に首里城は世界文化遺産に登録された。首里城を見学した生徒は「彦根城より広く金が目立つ。工事していたのが残念」と感想を述べた。現在、首里城正殿は工事中なので次回は衣を脱いだ姿を見たい。(B団・空)

龍の姿の理由

古くから中国と日本を結ぶ役割を果たしてきた琉球王国。王国の城である首里城にも中国の影響が様々なところに表れている。その1つは、城内のあちこちに見ることが出来る龍である。中国の龍は

約500年にわたり琉球王国の居城として政治・経済・文化の中心であった首里城正殿。中国と日本の築城文化融合した独特の建築様式や石組み技術には高い文化的・

5本の爪であるが、沖縄の龍の爪は4本、本土の龍は3本であるのだそう。想像上の生物である龍。皆さんはあの勇ましい容姿がどのように考え出されたかご存知だろうか。ここでガイドさんのお話を紹介する。

龍は9つの生物の特徴を合わせたという説があるのだという。ラクダの顔に鹿の角、うさぎ(鬼)という説もある。目、牛の耳、蛇の首、鯉の鱗、蛙の腹、虎の足、そして鷹の爪。：荘厳な龍の姿を想像できそう。

ところで、何故この9つの動物が選ばれたのか。ガイドさんにはつこり笑った。

「龍だけに理由ははつきりわかっていません」(B団・轍)

編集後記

旅の出会いに感謝

修学旅行の中で私たちは様々な『出会い』を経験した。人との出会い、自然との出会い、文化との出会い、そして歴史との出会い…。これらを通してそれぞれが得たものもきっと多いはずだ。

今回の全ての出会いに感謝し、修学旅行を締めくくりにしたいと思います。(B団一同)